

子どもたちを預かり教育する 「責務」を果たすため

長浜市教育長 北川 貢造



市では、平成26年4月に、「長浜子ども
のちかい」「長浜子育て憲章」を策定
しました。その背景にあるもの、教育
現場や地域での取組を紹介します。

価値観が多様化する現代。子ども
たちは生まれて間もないうちから大
人の感覚に合わせた情報社会にさら
されています。私は今の社会環境で
は、子どもたちが健全な心を育むこ
とが難しいと感じていました。市民
にとつての宝ともいえる子どもを預
かり、教育する責務を負う私たち教
育委員会は、子どもたちが身につけ
ない時代にも大切にしたい揺るぎ
ない考え方を示そうと『長浜子ども
のちかい』『長浜子育て憲章』を掲
げました。

3つの教で立派な大人に

私は、次の3つをしっかりと身に
つけることで、子どもは立派な大人
に育つと確信しています。

1つ目は名前を呼ばれたら「はい」と返事ができること。返事ができるということは「自尊心」の表れです。幼少期のうちに自尊心をもつことで、自分がかげがえのない存在であることをしっかりと理解することがとても大切です。

2つ目はあいさつは自分からし、困っている人に声をかけられること。家族や友達すべての人もまた大



めざす子ども像

- 一. 夢や目標をもち、それに向かって努力する子
- 一. 思いやりのある心のやさしい子
- 一. ふるさとを愛し、誇りをもって生きる子

長浜子どものちかい

＊わたしたちはちかいます＊

- 一. 元気にあいさつをします
- 一. 名前を呼ばれたら「はい」と返事をします
- 一. 「ありがとう」「ごめんなさい」をすなおに言います
- 一. 困っている人がいたら言葉をかけます
- 一. 人の話をしっかり聞きます

長浜子育て憲章

＊おとなが実践します＊

- 一. 子どもに誠実に生きる姿を見せます
- 一. 見守るまなざし、叱る勇気を大事にします
- 一. ルールとマナーを教え、奉仕の心を育みます
- 一. 自然や人々に感謝の心でふれあう子どもを育てます
- 一. 長浜に誇りをもち、地域に貢献する子どもを育てます

子どもは、私たちの宝です。生命を受け継ぎ、未来を切り拓く存在です。
市民ぐるみで、子どもの健やかな成長を願い、たくましく生きる子どもたちを育てましょう。

問 教育改革推進室 ☎65-8604

切な存在であることを理解し、人を
思いやる心をつかり育んでもらい
たいです。1人ひとりがこのように
考えられる大人になれば社会も自ず
と変化が現れ、やさしさが溢れてく
るはずです。

3つ目は履き物をそろえ、自分の
行動を振り返ること。履き物をそろ
えることで、これでよかったかと自
分を振り返ることにつながります。
自己中心的・利己的であると、何で
も自分勝手になりかねません。自分
の言葉や行動を振り返り、よかった
か悪かったかと考えることで自分を
正す。この力は一生涯必要です。

これら3つを備えられないと、自
己中心的で、反省ができず、他人の
みならず自分の命さえも顧みない人
間になってしまいます。

どのような環境にあっても、この
3つを身につけてもらいたい。そこ
から『長浜子どものちかい』は誕生
しました。

大人はどうすべきか

ここまで子どもに対することはか
り話してきましたが、では、私たち
大人はどうすべきかと考えました。
地域や家庭から子どもを支える大

人にも何らかの生き方を提示したい
と考えました。当初、大人の生き方、
姿にかかる『憲章』については、子
どもの教育を責務とする私たちには
いかがかと躊躇しました。しかし、
「子どものちかい」を進めるために
は、一緒になって道を歩いていただ
く大人が必要だと考え、提案したの
が『長浜子育て憲章』です。こうし
た大人の姿が子どもを健やかに育て
るのに役立つのではないかと考えて
います。1人でも賛同いただき、子
どもの前に立っていただければ幸い
という思いと、自分への戒めとして
も掲げさせていただきました。

地道に続け次世代へ

市内の園、学校をあげて取り組ん
でいるこれらが、特効薬としてすぐ
に成果がでるものとは思いません。
今更という考えの人もあることは承
知していますが、今更から取り組
んできたことでもあります。

『長浜子どものちかい』『長浜子
育て憲章』が、数十年前、今の子ど
もたちが親になった時にも次世代へ
と語り継がれていることを望んでい
ます。